



マーガレット・ニューマンの理論の本は、手にした瞬間に、「なぜこの表紙なのか?」と、驚きと不思議な感覚にとらわれる。この本も然り。その答えは、本書の62ページに書かれているので、ぜひ、楽しみに読んでいただきたい。

本書の素晴らしいのは、単に英語の著作を日本語に翻訳したことを超えている。監訳者の遠藤先生を中心としたニューマン理論・研究・実践研究会の方々が何度も渡米して、ニューマンと対話の機会を実際にもたれたり、ニューマンの理論を、日本での実践を通して発展させ研究した内容が本書に引用されたりしているのだ。これは、欧米で開発された看護理論が、日本の実践のなかで検証され、さらに、それが理論の発展に貢献している希少な例といえよう。国

実践-研究-教育の絆を深める理論

【評者】

手島 恵

千葉大学大学院看護学研究科教授

マーガレット・ニューマン

変容を生みだす

ナースの寄り添い

看護が創りだすちがひ

マーガレット・ニューマン／著

遠藤恵美子／監訳

ニューマン理論・研究・実践研究会／訳

A5判・180頁・2009年発行

定価 2,730円(定価 2,600円+税5%)

医学書院(TEL: 03-3817-5657)



を超えたこの対話のプロセスを、ニューマン本人や、彼女の理論を検証している研究者たちがとても喜んでいることを、メーリングリストのメンバーに配信されるメールで感じている。

ニューマンは、見るものによりちがいが生み出されるのは、見方の働き、つまり理論的な見方によるものとし、理論と見たものの間の結びつきは、実践において重要なちがいを生み出すことを主張している。タイトルの「変容を生み出す(ナースの)寄り添い(transforming presence)」は、クライアントに心をこめて寄り添うことで、クライアントにも、寄り添ったナースにも、変容が生まれることを意味している。変革の渦のなかで忙しさに追われ、看護の進む道に不安と期待が混在しているいまだからこそ、看護の忘れてはならない本質は何なのか、本書を通して再確認できるのではないか。

またこの本では、看護教育のあり方にも言及している。変容を生み出す学びは、探求の際、観察的モードから参画的モードへと転換することが重要である。静止的の見方から、ダイナミックで進化する過程に基づいた意識へと変化するプロセスは、自身の感情と他者の感情の両方に敏感で、体験的である。看護教員は、参画的アプローチにおいて、学生がなろうとしているものになるのを助ける触媒者であると記されている。基礎教育ならびに継続教育において看護学の独自性を考える際、これらの視点をあらためて考える必要がありそうだ。

ニューマンの理論には、物理学、哲学などさまざまな学問分野からの引用が文中に多数あり、米国でも難解とされる。2008年に米国で出版された本書が、わずか1年で日本語に翻訳され出版されたことは、マーガレット・ニューマン自身も謝意を表しているように、遠藤先生の素晴らしいリーダーシップの賜物である。